

## 2019年度 自然保育推進事業 活動報告書

### 1 団体名

麦わらぼうしこどもえん

### 2 今年度の活動概要

1 へびブーム	
	子どもたちがへびを捕まえてきた。「飼いたい！」の声にこたえて、数日間観察をする。その間、その存在にインスピレーションが湧いた子どもたちは、絵を描いたり粘土や廃材などを使って遊び込む姿が印象的だった。
	
2 クモブーム	
	散歩で出かけた神社で、クモの巣を見つけた子どもたち。白い袋の中を割ってみるとクモの赤ちゃんがたくさん出て来た。これをきっかけに、あちらこちらから様々なクモを捕まえてきては観察する日がつづいた。
	

### 3 滑り台ブーム



ダンボール箱をたくさん頂いたので、子どもたちが目に付くところに置いていたところ、数人の子どもがグラススキーを始めた。その後、もっと上手く滑られるよう試行錯誤した結果、連結させて滑り台を作ることにしたようだ。それから数日間は、その滑り台様々な場所へ持って行き遊ぶ（子ども曰く、実験との事）姿が見られた。



### 4 ひなたぼっこブーム



暖冬だったせいもあり、春を思わせる陽気の日があれば「ひなたぼっこをしよう！」と、ごぞを持ち出し、それぞれがお気に入りの場所を見つけては楽しむ日がつづいた。全身を使う派手な体験活動ばかりではなく、ただ空を眺めるだけ、ただ土や草や風の匂いを感じるだけの体験も大切にしたいと思う。

### 5 霜柱ブーム



雪も積もらず真冬日も数少なかったが、そんな中でも霜柱に興味を抱いた子どもたちは、霜柱が有りそうな場所を経験をもとに予測して観察したり集めたりしていた。ただ、いつもビニール袋に入れて持って返ってくるので、帰り着いたときは泥水と化していたが…（笑）ただただ見守るのみです。



## 6 運動会ブーム



子どもたちの「運動会やろうよ！」の声を受けて、開園以来2回目の“麦わらぼうしオリンピック”を開催した。

数週間かけてのミーティングを経て今年も、やりたい種目とそのルール・準備物などを子どもたち自らが決めました。

使用する田んぼの整備から飾りつけまで。子どもの力って本当に無限大なのです。



## 3 今年度の保育を振り返って

今年も、子どもたちが主体のブームがたくさん巻き起こった。大人が提案や指導をしなくても、面白いものを発見し、協力して楽しむことこそ子どもの本質と捉えることが大切だと感じた。大人の関わりは「困った時の知恵袋」程度に留めておく方がよいとも。

子どもたちのブームは深い学びに繋がる大切な要素だと、今一度認識させられた一年だった。